
二人と二人

瀬川 海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人と二人

【Nコード】

N8896E

【作者名】

瀬川 海

【あらすじ】

真央霊術院時代の、日番谷と草冠の話。普通の、平凡な日々と思いきや、その陰ではちらほらと怪しい影が……。

第1話：ある穏やかな秋の昼。

ザザ ……ツツ…

黒い小さな通信機から聞こえる耳障りな砂嵐。

それでも彼女はそれに乗っかる声を聞き漏らすまいと耳をそばだてた。

『よし、……計画を実行に移すんだヨ。』

まぎれるようにして聞こえてきたいつもと同じ、淡々とした声を感じてほんの少しだけ安堵を覚える。

『聞いているのかイ、……ネム。』

彼の期待に応えねばならない。

「はい、マユリ様。」

そう、いつも通りの抑揚のない返事を返して、
そして、

今回の標的ターゲットに目をこらした。

その目に映るは、二人の少年。

「冬獅郎っ!」

突如、自分の思考に割り込んできた声にビクツとして日番谷は振り返った。

そこに眺め慣れた友人の姿を認めて溜息をつく。

「何だ、……草冠か……」

「『何だ』って……何だよ、ソレ」

紫紺の髪、同色の瞳。

苦笑する友人、草冠は隣に座ってもいいかと尋ねた。

見ると、彼が指した机にはこれでもかとはかりに参考書やらノート

やら借りてきた本やらが乱雑に積み上げられ、危なっかしい塔が出来上がったっている。

「・・・あ、・・・わりい。」

日番谷はそれらを倒さないように慎重にどけて友人に席を空けた。

「まったく・・・もうテスト勉強体勢に入ってるのか、お前。」

草冠は先の塔から本を一冊とってぱらぱらとめくり、

「どうせ、冬獅郎のことだから勉強に熱中して隣に塔が出来てるのには気づかなかつた　　ってヤツだろ。何っーか、俺がこう言うのはどうかと思うけど」

冬獅郎をまつすぐ見つめて草冠は呆れたように言う。

「・・・進歩しないよな、お前も」

「うるせえ・・・」

日番谷が視線を上げるとクラス中の者達がこちらの様子を伺っている。

「冬獅郎、さつきから注目的になってたの、気づかなかつたのか？　いつこの塔が倒れるかって皆ひやひやしてて」

声かけようにもお前は勉強に没頭してるし、近寄ったらいつコレが倒れるかわかんねーしでさあ・・・と草冠が皆の声を代弁する。

「それでも、お前は声をかけてくるだろ。」

日番谷は草冠に視線を戻して言った。

「そりゃあ、もう・・・」

草冠は目を少しだけ見開いて、それでもどこかうれしそうな声で日番谷に返した。

「俺たちって、一連托生、だろ？」

クラスの他の者の会話にまぎれるようにして、日番谷と草冠の談笑が聞こえる。

そんな情景が、そんなクラスが、当たり前になつたのはそんなに遠くない昔。

そして、二人が分かれ道に行くことになるのも、
まだ誰も知らない、
それでもきつとそんなに遠くはない、未来のこと
.....

動いた

.....
タイゲット

木の上にて窓越しに二つの標的を見張っていたネムは、万一にも見
つかるようなことがあつてはならないと、木の葉の陰に身を引いた。
そうして二人の様子を観察する。

紫紺の髪をした少年が銀髪の少年の手を引つ張っていた。教室から
は一人、二人と人数が少しずつ減っていき、残るはいまや彼ら二人
のみである。

これがあの『イドウキョウシツ』とかいうものだろうか。

ネムは、まだその『移動教室』とやらを体験したことは無い。

.....

興味をそそられるものではある。

が、だからといって任務を放つていいわけでは断じてない。

今は『ヒツガヤトウシロウ』と『クサカソウジロウ』の方が先決だ。
霊圧は先ほどすでに捉えた。

所詮は死神統学院生。

霊圧を完全に抑えることなどまだ出来ていない。

ネムは樹から音を立てないようそつと下りると、瞬歩で二人の霊圧
を追った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8896e/>

二人と二人

2010年10月9日13時02分発行